

厚生労働科学研究費補助金  
(がん対策推進総合研究事業 (がん政策研究事業))  
小児・若年がん長期生存者に対する妊孕性のエビデンスと  
生殖医療ネットワーク構築に関する研究  
分担研究報告書

「がん拠点病院における生殖医療連携のモデル作り」

研究分担者 加藤友康 国立がん研究センター中央病院婦人腫瘍科 科長

**研究要旨**

がん患者の妊孕性温存に関して、がん専門病院では生殖医療との連携基盤がないことが問題点として挙げられる。がん専門病院内に生殖医療医が不在のため、妊孕性温存を断念するケースに歯止めが立たない。この現況を打破するため、がん専門病院である当院と近隣の生殖医療を標榜している医療機関との連携を図り、がん拠点病院における生殖医療連携の模範となるモデル作りを目的として一昨年度より研究を開始した。

がん拠点病院と生殖医療施設双方の問題点とその解決策として、患者説明用の資料の共有、妊孕性温存に関する連携手帳、妊孕性温存に関する連携フローを協議、さらには生殖医療医を招聘しがん治療医向けの講義行い、生殖医療との連携の模範となる基盤を築いた。今後は定期的な症例検討会を行い、更なる充実を図る。

**A. 研究目的**

がん専門病院における、がん患者の妊孕性温存に関する問題点として、

1. 妊孕性温存希望の患者は数多くいるが院内に生殖医療医が不在のため地域生殖医療施設に連携を頼らざるを得ない。
2. 妊孕性温存に関する地域連携モデルの基盤がなく、担当医あるいは患者レベルでの受診が主流となっており、結果的に妊孕性温存の至適時期を逸したり、受診予約ができないケースもしばしばある。
3. 病勢進行が速い場合は、地域の生殖医療施設に移動ができないことを理由に、妊孕性温存を断念する場合もある

などが挙げられる。

この対策としては、がん専門病院と生殖医療機関との密接でシームレスな連携が求められる(図1)。だが、その連携がこれまでに取られていないのが現状である。そこで、がん専門病院がどのようにしたら生殖医療機関との連携を図れるか、そのモデル作り目的とし一昨年度より研究を開始した。

**B. 研究方法**

妊孕性温存に関するがん専門病院と地域生殖医療施設との医療連携パスの具体案として、以下の提案がなされた。

1. 共通パンフレットを使用した患者説

明

2. 妊孕性温存に関する連携手帳の作成
3. 各施設の医療連携を介した運用基盤の確立
4. 定期的な合同勉強会、症例検討会の開催

### C. 研究結果

患者説明用のパンフレットは男性がん患者向け(図2)と女性がん患者向け(図3)に作成した。その内容は男女共通に、①生殖医療機関受診までの流れ②生殖医療機関を探す方法③費用について触れ、妊孕性温存治療前に理解したいチェックポイントを設けた。女性版には卵巣機能低下の説明と妊孕性温存方法、男性版には精巣機能低下の説明と妊孕性温存方法について触れた。このパンフレットを300部ずつ印刷し、各医療機関に配布した。また、当研究班のHPにアップし、必要に応じてダウンロードできるよう便宜を図っている。

2016/11/17には当癌センター中央病院の連携の一つである聖路加国際病院内で、生殖医療連携チームとシームレスな連携手続きについて、打ち合わせを行った。具体的には、紹介・返事用の連携フロー案の調整し、聖路加側からみた最小必要事項としてがん腫、進行期、治療内容、最終月経開始日の記入が要望された。また事務手続きの簡素化を狙いとして、紹介・返事用テンプレートの必要性が挙げられた。さらにはface to faceの会議を通して、凍結保存の成否やがんの転帰(再発、死亡)に関する情報共有の場として定期的な会議の提案が自然と挙がった。

この打ち合わせを通して実現したのが、2017年2月7日に国立がん研究センター中央病院の医師向けに妊孕性温存方法についての講義を聖路加国際病院の生殖医療医を

招聘して開催した。100名余りの医師、看護師、薬剤師、相談員の参加があり、参加者には前述の患者向けパンフレットを配付した。

### D. 考察

当院の連携先として、聖路加国際病院と虎ノ門病院を候補にして、まずは聖路加国際病院との連携をモデルに進めてきた。生殖連携施設との連携は着実に進んでいると考えられる。

がん患者はがんの告知を受け間もないうち妊孕性温存対策も決めなければならないので、患者目線に立って妊孕性温存に関する相談窓口を、当院サポートセンター内開設の立案がなされた。このような基盤整備が、妊孕性温存希望する患者のなかから一人でも多く、治療後に子供を授かることに貢献できると考える。

### E. 結論

腫瘍専門医療機関と生殖医療機の連携は、AYAがんの治療の一環として取り組むべき問題で、本研究はそのモデルケースを示したと考える。

### F. 健康危険情報

なし

### G. 研究発表

1. 論文発表 なし

2. 学会発表

#### 第24回日本乳癌学会 2016/6月

がん専門病院におけるがん・生殖病院連携の実際と今後の展望 充実したがん・生殖連携に向けたモデル開発

北野 敦子, 清水 千佳子, 加藤 友康, 塩田 恭, 秋谷 文, 百枝 幹雄, 藤原 康弘

### H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
なし

図 1

妊孕性温存に関するがん専門病院と地域生殖医療施設との医療連携に関する基盤開発

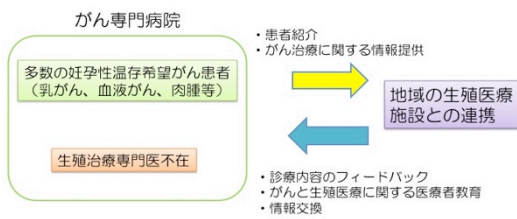


図 2 妊孕性温存に関する患者説明用パンフレット（男性用）



図 3 妊孕性温存に関する患者説明用パンフレット（女性用）

